

浦賀 歴史散策 マップ

浦賀・鴨居地域運営協議会 歴史部会

事務局：横須賀市市民部浦賀行政センター ☎046-841-4155
令和元年12月発行



浦賀の名所



① 大衆婦本塚の碑



玄治元年(1864)建立。この土地が開発される以前の様子を記している。碑文は、浦賀奉行所与力中島三郎助の筆致をそのまま刻んでいる。

② 浦賀コミュニティセンター(郷土資料館)



昭和57年(1982)、旧浦賀ドックの迎賓館であった表倶楽部跡地に建設。浦賀奉行所や中島三郎助に関する資料、鳳凰丸・威臨丸・黒船・奉行所の模型など、浦賀の郷土資料を展示している。

③ 西叶神社



西浦賀の鎮守。文覚上人が源氏の再興を願って勧請。現在の社殿は、天保13年(1842)に再建された。社殿を取り巻く龍や花鳥の彫刻は後藤利兵衛の作で、市民文化資産に指定されている。

④ 東福寺



曹洞宗のお寺。明応9年(1500)創建。本堂の軒下には鶴・龍・虎などの鏝絵、室内には江戸時代中期の画家・酒井抱一が描いた大きな「亀」の絵馬が奉納されている。

⑤ 常福寺



浄土宗のお寺。文明年間(1469～1486)創建。浦賀に奉行所が移されてからは、幕府の本陣(御用寺院)として、奉行交代の儀式が行われた。境内は格調ある造りとなっている。

⑥ 浦賀奉行所跡



享保5年(1720)、下田から移された奉行所は、江戸に出入りする海の関所としての役割を果たした。現在は、跡地を取り囲む石垣と表門にかかっていた石垣が残されている。

⑦ 為朝神社



浜町(西浦賀4丁目)の鎮守。祭神は源為朝で、疱瘡除けの神として信仰を集めた。毎年6月の祭礼に奉納されている「虎踊り」は、奉行所とともに下田から移ってきたといわれている。

⑧ 燈明堂



慶安元年(1648)、幕府の命により建立。房総半島まで届くという灯りは、観音崎灯台ができるまで、航行の安全と浦賀港への案内灯としての役割を果たした。昭和63年(1988)再建。

① 八雲神社



大ヶ谷(東浦賀1丁目)の鎮守。江戸時代に修験道の寺として建てられたが、明治維新の廃仏毀釈で神社となった。お堂の姿はそのまま、向拝には彫刻と見間違ふほどの龍の鏝絵がある。

② 乗誓寺



浄土真宗のお寺。安貞元年(1227)創建。江戸時代から学問所としての性格が強く、明治初期には郷学校が開校された。墓地には、干鯛問屋や廻船問屋の店の墓がずらりと並んでいる。

③ 顕正寺



日蓮宗のお寺。天正元年(1573)創建。横須賀を舞台にした小説「血族」の作者・山口暉や浦賀の代表的歌人である西野前知などの墓がある。

④ 東耀稲荷



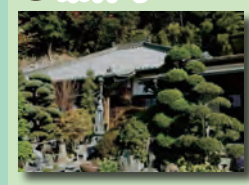
浦賀にある多くの稲荷社の中でもひとときわ贅沢に造られており、格天井や欄間には見事な彫刻が施され、屋根には「大黒」「恵比寿」の飾り瓦があり、当時の東浦賀の繁栄を物語っている。

⑤ 専福寺



浄土宗のお寺。永正元年(1504)創建。本堂の前に、観音像と小林一茶の日記の一節が刻まれた碑がある。一茶が初恋の女性の墓参りに訪れたといわれている。

⑥ 東林寺



浄土宗のお寺。大永3年(1523)創建。本堂正面に本尊の阿弥陀如来が安置され、もう一体の阿弥陀仏は、市文化財に指定されている。墓地には、浦賀奉行所与力・中島三郎助父子の墓がある。

⑦ 法幢寺



浄土宗のお寺。明応2年(1493)創建。本尊の阿弥陀如来は浦賀で一番大きなもので、恵信僧都の作と伝えられている。本堂正面の外壁に唐獅子の鏝絵がある。

⑧ 東叶神社



東浦賀の鎮守。祭神は応神天皇で、西浦賀の本社を勧請した。石段両脇の蘇鉄は、源頼朝により奉納された。東のお守り袋に西の勾玉を納めて身につけると、様々な良縁に恵まれるという。

浦賀の歴史

浦賀が湊町として発展する基礎は、後北条氏が房総半島の里見氏に対抗するために水軍の基地として浦賀城を築いたことに始まる。これに伴い、船大工や鍛冶屋など水軍の維持管理に関わる職人たちが浦賀に居を構えるようになり、町が形成されていった。

享保5年(1720)、下田より江戸経済の番人として浦賀に奉行所が移され、江戸へ出入りする船を検査する「船番所」が設置される。のちに異国船との交渉を行うなど、江戸湾防備の最前線となる。嘉永6年(1853)のペリー来航により、浦賀は近代への幕開けの地となる。

明治維新以降の浦賀は造船の町として、近代造船の一翼を担った。

中島三郎助 [文政4年(1821)～明治2年(1869)]

14歳で浦賀奉行所の与力見習いとして出仕する。2年後、観音崎台場であった三郎助は、アメリカ商船モリソン号に砲撃を加えた功績により奉行から太刀一振りも賜っている。国内各流派はもとより、西洋式の高島流の免許皆伝となるほど砲術に長けていた。また、弘化3年(1846)のビッドル艦隊来航後、江戸湾警備に大型軍艦の必要性を説いている。

ペリー艦隊来航時に米国側と最初に交渉をした一人。その後、幕府の命により洋式軍艦・鳳凰丸の建造に携わる。

戊辰戦争で二人の息子とともに函館に渡り、最後まで幕臣の意地を貫いた。五稜郭前の千代ヶ岡台場で倒れた。

浦賀船渠跡(浦賀ドック)

ペリー来航後、軍艦による防備の必要性を感じた幕府は、浦賀で日本初の洋式軍艦・鳳凰丸を建造し、その後、浦賀は幕府の軍港としての役割を担うようになった。太平洋横断を果たした威臨丸が渡米前に点検をおこなったその場所が、日本で初めてのドライドックといわれている。

明治維新後、渋沢栄一らによって造船所建設計画が持ち上がるが断念。その後、三郎助を思慕する有志により愛宕山に「招魂碑」が建てられ、その除幕式に参列した榎本武揚らから「浦賀に造船所を」との声が上がり、明治29年(1896)ついに「浦賀船渠」が創設され、日本では珍しいレンガ造りのドライドックが完成した。

浦賀の鏝絵

江戸時代後期の浦賀絵図を見ると瓦屋根の家や土蔵が多いことがわかる。浦賀には、これらの建物をつくる様々な職人が住んでおり、コテを使って壁や床、土塀などを仕上げる左官職人もたくさんいた。明治初期の記録でも東西浦賀に19軒ほどあったという。

この左官職人が使用する道具が「鏝(コテ)」であり、この鏝で壁面などに浮彫り細工を施したものを「鏝絵」と呼んでいる。

明治時代後半から昭和にかけてつくられた「鏝絵」が東西浦賀の寺社を中心に見ることができる。が付いている寺社は、外から鏝絵を見ることができます。ゆっくり散策してみよう!

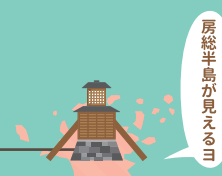
探してみよう!



- 1 八雲神社で木刀を探せ!
- 2 東叶神社でおちちを吸っている赤ちゃん犬を探せ!
- 3 東耀稲荷で釣りをしている人を探せ!
- 4 愛宕山公園入り口のアーチを探せ!
- 5 西叶神社で柱を担いでいる力士を探せ!
- 6 大六天神神社で二対の龍を探せ!
- 7 海の道(市道 2073号)を探せ!
- 8 郷土資料館で鳳凰を探せ!



毎年6月のお祭りに登場するヨ



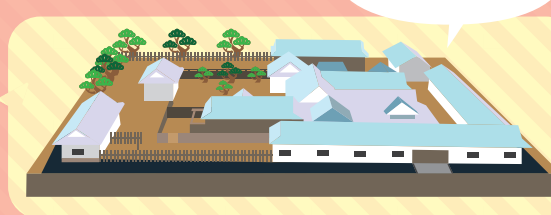
原総半島が見えるヨ



ブルーベリー狩り
レモン狩り(予約制)
千代ヶ崎砲台跡
一般公開は
していません



この場所に浦賀奉行所がありました



マナーを守って
楽しく歩きましょう。

鴨居八幡神社
会津藩士の墓
観音崎公園
横須賀美術館
なごなご...

ペリー記念館
くりはま花の国
なごなご...

料金 200円
営業時間 7:00~18:00
(12:00~13:00 休憩)

天女水の碑
御林
真福寺
吉井貝塚
なごなご...

ペリー記念館
くりはま花の国
なごなご...

	カフェ		スーパーマーケット		蔵づくりの建物・古民家
	お食事処		コンビニ		鏝絵
	パン屋		トイレ		